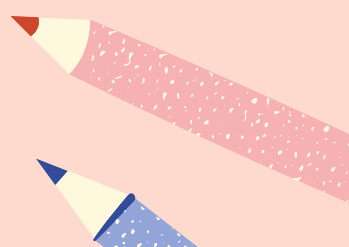
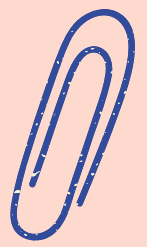
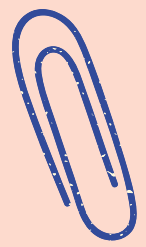
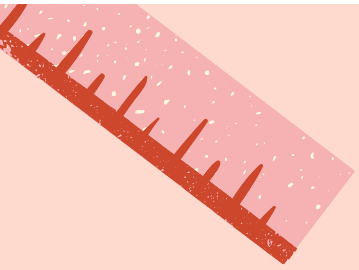


在宅看護

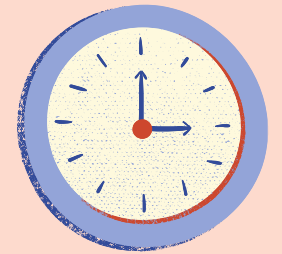
フィールドワーク 3

衛生看護科 3 年生

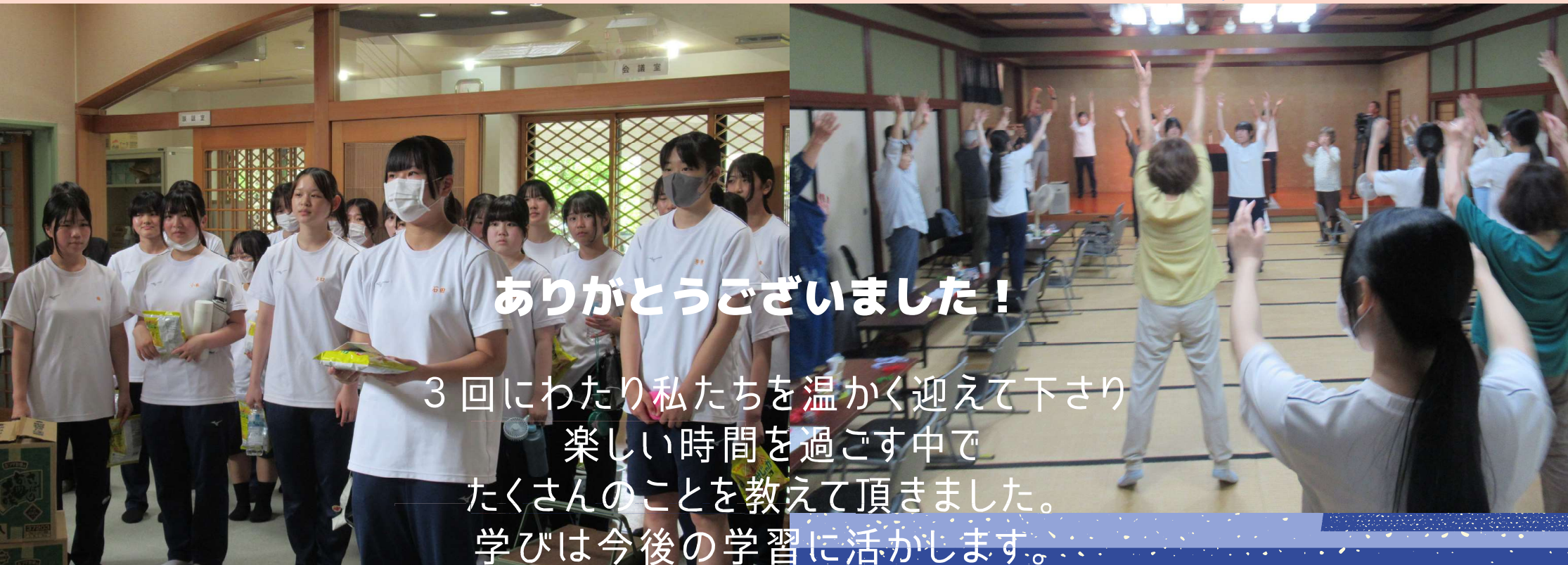


さつき苑 認知症カフェ

3回目



準備体操



ありがとうございました！

3回にわたり私たちが温かく迎えて下さり
楽しい時間を過ごす中で
たくさんのことを教えて頂きました。
学びは今後の学習に活かします。

本日の交流内容

1 準備体操

2 BAGGO

3 あやとり

4 お手玉

5 血圧測定

6 ハンドケア



BAGGO





多くのことを
教えて頂きました

あやとり
お手玉









様々な交流を通して震災後の生活や健康課題について
伺いました



在宅看護フィールドワーク

～震災後の過疎地域でくらす高齢者の生活課題と健康との関連～

生徒振り返り

【過疎地域の高齢者における「健康面」に特化した課題】について

-  **認知機能の低下：仮説…人と関わる機会や地域の行事が減り、認知機能の低下が地震前よりも進んでしまっている。**
-  **実際…習い事などを行ったり適度な運動を行ったりと対策をできている人も居れば、人との関わりが減って心配、物忘れが多くなってきたとおっしゃっている人もいた。**
-  **アセスメント…お家で簡単にできる脳トレや運動を書いたパンフレットを作ったり、交流会の機会を増やし、沢山の方と交流してもらう。**



【基本的生活課題】 移動・アクセスの制限（「買い物難民」と通院困難）

- ・公共交通機関（バス・鉄道）の配線や減便により、自力での移動手段を持たない高齢者が孤立



<仮説>

過疎化の進行により利用者が減少すると交通機関の維持が難しくなり、高齢者は移動手段を失うため外出頻度が減少する。



<実際>

電車やバスなどの公共交通機関は使わず車を利用して外出している。車がなかったり、運転が困難な場合は、家族の送迎に頼っている。



<アセスメント>

車や家族の送迎を利用しているため、直ちに移動困難が生じているわけではない。しかし、加齢による身体機能の低下や免許返納などにより将来的に車が使用できなくなる可能性や、家族の都合により外出が制限される可能性があるため、交通サービスを整えることが重要である。

【過疎地域の高齢者における「健康面」に特化した課題】について

- ①低栄養（フレイル）の進行 
- ②仮説：食べれるものが歯や胃もたれなどの関係で少なくなってきた偏っている
- ③実際：魚や乳製品などを摂取しており、食事内容は様々、好き嫌いなく食べていることから栄養摂取状況は良好と考える。買い物や食事準備は自身の運転や家族の支援により対応できている。一方で、身体の片側にしびれがあり、階段でつまずくことが増えているため、身体機能低下による転倒リスクが懸念される。今後は栄養状態の維持に加え、身体機能の変化や安全な移動への配慮が必要である。
- ④アセスメント：栄養状態の維持に加え、筋力低下やしびれの進行状況の観察が必要。また、転倒予防として手すりの活用や段差の回避、室内外の動線の見直しなど環境調整を検討することが望ましい。さらに、必要に応じてリハビリや医療機関への相談を行い、身体機能の維持・改善を図ることが重要である。



【能登半島地震の地域でくらす高齢者】について

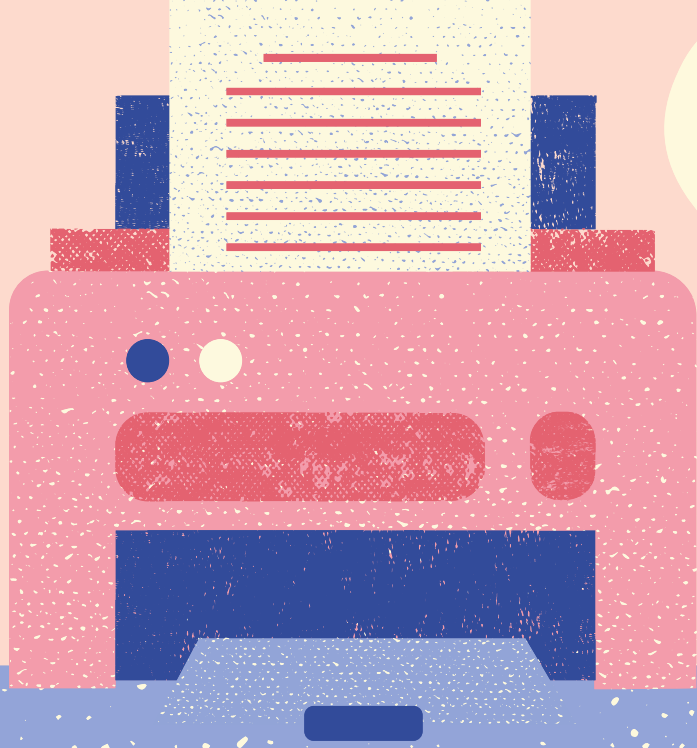
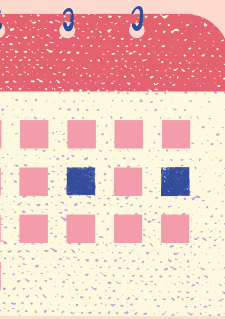


- ・ 仮説…疾患の重症化：病気があっても病院に行きにくいため放置してしまう。

実際…重症化するまで我慢した結果、即入院になってしまった。

入院中筋力が低下し、歩けなくなったためまだ入院していたかったが、退院してと言われたため退院。

アセスメント…移動手段がなく、病院に通いにくいため病気を放置してしまい重症化につながってしまったことから定期的に交流会を行い、その中で最近の体調はどうかを聞いたり、どうゆう予防があるかななどを伝えたりすることで早期発見・予防につながっていくと思う。



次回フィールドワーク予定

9月4日（金）

一人暮らし、二人暮らし高齢者
自宅訪問

